J-37

津波被災市町村における観光復興に向けた外国人観光客向けイベントの在り方に関する研究

Study on the way of events for foreign tourists for tourism reconstruction in tsunami affected municipalities

○柿崎龍平[1]，　山本和清[2]，　宮﨑渉[3]
*Ryuhei Kakizaki[1], Kazukiyo Yamamoto[2], Wataru Miyazaki[3]

Abstract: Reconstruction after the Great East Japan Earthquake has been progressing on the hardware side, and now on the soft side. Of the 34 municipalities affected by the Great East Japan Earthquake, 29% of the 34 municipalities are working to improve software for tourism recovery. In addition, 50% of 17 municipalities are working on inbound policies. The purpose of this study is to obtain knowledge to help clarify the ideal way of events for foreigners for future tourism reconstruction. In this study, “foreign event” is defined as an event in which tourism is being reconstructed in a tsunami-affected municipality after the Great East Japan Earthquake and exchanges with foreign tourists take place. In the future, the specific percentage of foreigners participating, questionnaire policies and future needs will be clarified through questionnaire surveys and interview surveys, and knowledge will be obtained to clarify the ideal way of events for foreigners.

1.研究背景

東日本大震災の復興はハード面の復興が進み，現在は，ソフト面の復興が進められている．東日本大震災の津波被災市町村 34 市町村のうち 29 市町村が観光復興に向けたソフトの充実に取り組んでいる．また，17 市町村がインバウンドの政策に取り組んでいる．復興庁は，東北地方の観光は全国的なインバウンド急増の流れから大幅な遅れをとっていることから，平成 32 年に東北の外国人宿泊者数を 150 万人とすることを目標とし，平成 28 年から観光復興関連事業の関連予算を 5 億円から 50 億円と大幅に増額した．東北の観光復興を加速化させるために国としても東北地方にインバウンドを呼び込む取り組みを推進している．

五十嵐らの「東日本大震災による津波被災市町村における観光復興の実態と課題」によると，津波被災市町村が行うインバウンド政策の取り組みとしては，「多言語パンフレット・マップの整備」が 15 市町村，「無料無線 LAN の整備」や，「海外向けプロモーションの実施」は 11 市町村とほとんどの津波被災市町村が行っている．しかし，観光資源という視点で見ると「外国人向けの観光資源やイベントの実施」に関しては 5 市町村にとどまっている．イベントは多くの人を集めるため，外国人観光客誘致に関して有効的であり，津波被災市町村の観光資源を利用することで外国人が訪れるきっかけとなり，沿岸地域の活性化が期待される．津波被災市町村での外国人イベントは被災地の風化と風評被害を払拭し，観光復興に繋がるといえる．そのため，観光復興のための外国人向けイベントの啓発が急務となっている．

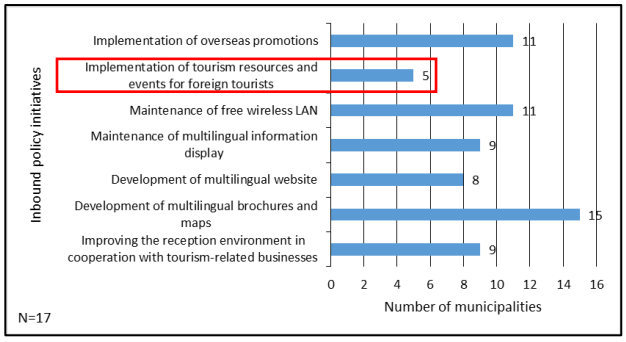

Figure 1. Inbound policy initiatives

2.研究目的

本研究では，東日本大震災の津波被災市町村での既存の外国人向けイベントの実態調査を行う．そして，津波被災市町村に訪れている外国人観光客に外国人向けイベントに関する意識調査を行い，実態調査と意識調査を比較して主催者側のサービスと外国人側のニーズの相違点を抽出する．そこから，外国人観光客のニーズと外国人観光客が集まるイベントに必要な要素を明らかにし，今後の観光復興に向けた，外国人向けイベントの在り方を明確化するための一助となる知見を得ることを目的とする．

3.研究方法

3.1 調査対象地

実態調査の対象地については，すでに東日本大震災の津波被災市町村で外国人観光客向けイベントが行われている宮城県仙台市，気仙沼市，多賀城市，松島町，

１：日大理工・学・海建　２：日大理工・教員・海建　３：日大工・教員・建築

福島県いわき市の５市町村を対象とする．意識調査の対象地については，宮城県釜石市，松島町，福島県いわき市を対象にする．選定理由としては，インバウンド政策に取り組んでいる津波被災市町村のうち，震災前と震災後の観光入込客数の減少の差が著しかったため，上記の３市町村を対象とした．

Table 1. Increase / decrease in the number of tourist visitors before and after the earthquake

	2010	2017	Difference
Rikuzentakata	945,719	528,515	−417,204
Ofunato	969,814	691,580	−278,234
Kamaishi	780,835	280,280	−500,555
Miyako	1,084,119	1,130,982	46,863
Iwaizumi	431,908	405,722	−26,186
Kuji	545,865	624,465	78,600
Sendai	19,789,520	22,418,714	2,629,194
Ishinomaki	2,612,359	2,481,019	−131,340
Shiogama	2,323,216	2,190,011	−133,205
Kesennuma	2,540,589	2,746,785	206,196
Tagajo	682,999	683,622	623
Iwanuma	2,310,663	2,477,393	166,730
Higashimatsushima	1,123,223	687,147	−436,076
Yamamoto	48,681	45,761	−2,920
Matsushima	3,568,621	2,761,000	−807,621
Iwaki	10,766,595.0	8,141,142	−2,625,453

3.2 調査方法

本研究では，文献調査，アンケート調査とヒアリング調査を行う．文献調査では，すでに行われている外国人観光客向けイベントの内容や開催場所などのイベントの基本情報を把握する．アンケート調査では，イベントの主催者を対象に行う．イベントに参加している人の客層，過去数年の入込客数や今後の方針などイベントの現状を把握する．ヒアリング調査では，対象地を訪れている外国人観光客を対象に，イベントの認知，イベントの参加経験や実施してほしいイベントの内容など外国人観光客のニーズの把握や外国人観光客が集まるイベントに必要な要素の抽出を行う．

なお，本研究では東日本大震災の津波被災市町村で観光復興を行っており外国人観光客との交流が行われるイベントを「外国人向けイベント」の定義とする．

4.調査結果及び考察

現状として，すでにイベントを行っている宮城県仙台市，気仙沼市，多賀城市，松島町，福島県いわき市の５市町村のホームページ上で過去に行われた国際交流イベントを文献調査より確認することができた．

はじめに，宮城県仙台市の「せんだい地球フェスタ」は，公益財団法人仙台観光国際協会内のせんだい地球フェスタ実行委員会事務局が主催で行われている．開催場所は，仙台国際センター展示棟で参加費は無料で開催されている．また，様々な国の料理を味わうことができ，世界各国の踊りなどが催されるという内容で，多くの外国人やボランティアが集まるイベントである．

次に，気仙沼市の「気仙沼みなとまつり」では，お祭りの中で行われる街灯パレードの中に，気仙沼商工会議所の方々が実施しているインドネシアパレードがある．開催場所は，気仙沼市の内湾・港町臨港道路であり，鮮やかな民族衣装や伝統楽器ガムランの演奏が大勢の見物客を魅了する．東日本大震災時に衣装や楽器が流出したが，インドネシア大使館などの支援を受け再開したイベントである．

次に，多賀城市の「多賀城跡あやめまつり」は，多賀城市国際交流協会が主催している．多賀城跡あやめ園で開催される．その中の国際交流コーナーでは外国人を招待し，海外の郷土料理などで交流を行い，カザフスタン伝統料理のボルシチなどが販売される．交流ステージでは，ミャンマーの方々による歌のステージが行われる．

次に，松島町の「松島流灯会海の盆」は，そのお祭りに併せて募集した外国人に浴衣を着せてお祭りに参加してもらい，日本の文化を体験するといった内容のイベントである．開催場所は，松島海岸中央広場で行われ，宮城県松島町産業観光課観光班よって取り組まれている．

最後に，福島県いわき市の「日本文化理解・体験講座」は１年に２～３回開催している．開催場所はイベントごとに変わるが花見や，着物の着付けなど日本の文化を通して外国人との交流を図る．公益財団法人いわき市国際交流協会が主催を担っている．

5.まとめ

文献調査から，いずれのイベントも民族衣装や伝統料理などの異国の文化や日本の文化を通して交流が行われていたことが把握できた．また，開催場所が駅から近いということも共通していたことが把握できた．参加外国人の国籍は欧州よりもアジアからの参加が比較的多く見られた．今後は，アンケート調査やヒアリング調査により具体的な参加外国人の割合，今後のイベントの方針や外国人観光客のニーズを明らかにし，外国人向けイベントの在り方を明確化するための知見を得る．また，参加している外国人の意見も反映するために実際にイベントに参加することも検討する．

6.参考文献

[1]復興庁：「復興の取り組みと関連諸制度」，pp23，2018 年
[2] 公益社団法人日本都市計画学会：「東日本大震災による津波被災市町村における観光復興の実態と課題」，都市計画報告集，No. 15，pp. 364-365，2017 年.
[3] 宮城県松島町産業観光課観光班：「宮城県松島町におけるインバウンドの取組」，pp16，2017 年
[4]宮城県経済商工観光部観光課：「観光統計概要」，pp42-43，2017 年